



研究 ・ 開 発	研修課	1 授業研究における成果の公開及び伝達	(1) 授業研究の記録(視聴覚資料) 研究課との連携 (2) 授業アンケートや教科代表者の授業研究の計画・実施と授業アンケートの内容の改善 (3) 研究紀要『葉脈』のさらなる充実	A	A	1 生徒の授業アンケートの項目は、毎回改善を加えており、現状を踏まえたものになっている。 2 第1回の職員研修のコーチング研修は生徒とのやりとりやすく使えたと好評だった。今後は、生徒対応や保護者対応など、先生方が日常的に課題としていることについて企画していく。 3 研修会の案内の周知徹底のため学校ポータルサイトの利用を検討。 4 どの学年も指導案を十分に検討し、実施してもらった。ただし、時間配分に課題があるので、人権特設授業は90分とし、2限以降45分授業にして、生徒に振り返りをさせる時間を確保したい。 5 新刊案内やおすすめ本の紹介カード展示により図書館に向かわせることができた。 6 従来の九州国立博物館では天候の心配があるため、実施会場や内容について検討が必要との観点から2年生は東京研修において実施を予定している。1年生は博多座にて実施を予定している。 7 留学案内を2棟～1棟の2Fの渡り廊下に掲示し、情報発信を行っている。
		2 校内・校外職員研修の充実・発展	(1) 他者と協働し、コーチングへの進化を促すための職員研修の計画・実施 (2) 専門研修等への積極的参加と還元できる場の設定 (3) 教育研究事業指定校等、先進校への学校視察とその還元	A	A	
		3 人権教育の充実・発展	(1) 全ての教育活動における人権教育の推進 (2) 生徒の事情に応じた人権教育特設授業づくりと展開の工夫 (3) 人権教育に関する全職員向け研修会の充実	A	A	
		4 図書教育の充実・発展	(1) 図書館利用の促進に向けた取り組みの工夫 (2) 生徒主体の百人一首かるた大会の実施 (3) 芸術鑑賞(文化的活動)の事前・事後指導の充実	A	A	
		5 国際交流事業の充実・発展	(1) 生徒への短期留学案内の積極的な情報発信と事前・事後指導の充実	A	A	
部 学	1 学年	研究課 S C Hの研究・推進	(1) Kブランドの内容を研究・精査し、その目的・目標及び本校生徒・職員の役割を明確化する。 (2) 研修課と連携し、Kブランドの内容・進捗状況を本校職員全体に周知する。	B	B	1 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(SCH)の内容把握をFD科と共に行った。 2 把握した内容をまとめ、これから会議等の中で職員への周知を行った。 (1)挨拶等礼儀マナーは、指導を受けた分少しずつ身に付いてきている。 (2)スモールステップの観点からは、結果的に良いスタートが切れたと言える。 (3)消灯、戸締りの習慣を残して、概ね多くの生徒が、環境整備や荷物の整理など自主的にできるようになってきた。 以上から、身に付けた生活習慣を継続させるためのゼロトレを行う。 (1)授業においては、積極的な姿勢で取り組むことができた。 (2)人間関係が少しずつできてきて、クラスの団結がみられるようになり、良好な雰囲気醸成でき始めた。 (3)リーダーの育成、発掘がこれからの課題として残っている。時間とともに経験が必要。 今後クラスや学年組織の更なる向上を見据え、主体的な活動の場を与える等、リーダーの発掘、育成を行う。 (2)類型選択のために自ら考え、情報を収集・分析することができ、また、他者の意見を素直に聞き入れ、適切な進路選択を行うことができた。スタディサプリや進研模試等で、自らの力を伸ばそうとする姿勢を持てた。また、進路決定への意識付けができた。 校外模試や検定試験などの成績向上に向けて、課外やスタディアプリを効果的に使っていく。
		基本的な生活習慣を確立させ、自主性を育成する	(1) 爽やかな挨拶、社会人としてのマナーや所作、立振る舞いが適切にできる生徒を育てる。 (2) 「自立と協働を学ぶ体験活動」を通して香椎高校生としての自覚をもたせ、3年間の充実した高校生活を送ることができる素地を身に付けさせる。 (3) 自主的に掃除や荷物の整理、持ち物の管理、消灯・戸締りができるように指導を徹底する。	B	B	
		香椎高校生として社会人として他者と協働し、行動できる生徒を育成する	(1) 授業や学校行事を積極的に参加することを通じて、基礎学力を育成し、合意形成ができる態度を養わせる。 (2) 部活動や学校行事の諸活動に積極的な参加を促し、たくましく忍耐強いしなやかな人間性を身に付けさせるとともに、良好な人間関係を構築できるようにする。 (3) 他者と協働する経験を積み重ねさせることによって自信を持たせ、リーダーの育成につなげる。	B	B	
		社会に貢献できる人材の素地の育成	(1) 4月にPSPを実施し、早期に自分の適性を知り、進路選択の一助とする。 (2) 学部・学科研究を通して調べ学習や講話、活動を実施し、幅広い進路の知識・考え方を育成する。 (3) 黒門セミナーを通して、プレゼン資料作成の基礎力と発表での実践力を育成するとともに、社会人としての対応マナーを指導する。	A	B	
		香椎生としての誇りを持ち、社会に通用する自律的な生徒を育成する	爽やかな挨拶、場に応じた適切な立ち居振る舞いのできる生徒を育成する。 生徒手帳や生活の記録を活用し、提出物や期限の厳守などの自己管理を徹底させる。 生徒情報の共有を強化し、さまざまな場面で生徒を支援する姿勢を整える。	B	B	
年	2 学年	学校生活における様々な場面で自主的・主体的に活動できる生徒を育成する	学習の意義を理解し、自己の目標達成に向けて自主的に学ぶ姿勢を養わせる。 授業に積極的に参加することを通じて、他者と協働し、主体的に学ぶ態度を養わせる。 学校行事や部活動を通じてリーダーを育成する。	B	B	1 個人での挨拶：学年全体で挨拶の意義を確認するとともに、教員自身が積極的に挨拶する姿勢を見せる。 提出物の徹底：機会をとらえてスケジュール管理の重要性を伝え、背面黒板や生徒手帳の活用を通じて継続的に指導する。 2 自主的・主体的に学習する姿勢：調査前の朝や放課後の自学だけでなく、長期休業中の自学などを企画していく。 3 進路指導と関連づけた学習の意義づけ：これまでの活動を「活動メモ」や「足跡」に記録させ、将来像をイメージさせる。 4 リーダーの育成と支援する学年の雰囲気作り：学年集会の司会進行を生徒に任せ、前に立つ機会を通してリーダーの自覚を持たせる。
		自己の能力と適性に応じた進路目標を選択できる生徒を育成する	面談や総合的な学習の時間における活動を通じて視野を広げ、明確な進路目標を持たせる。 探究活動の成果を発表することで表現力やコミュニケーション能力を高めさせる。 自己の適性に応じた進路先についての研究を行い、志望理由書を完成させる。	A	A	
		主体的に学び、自己を振り返り、発展的課題にチャレンジできる生徒を育成する	授業の重要性を自覚し、香椎高校独自の対話的で深い学びを通じて学習効果を上げさせる。 静かな環境の中で、協力して自学に励むことのできる生徒を育成する。 生活の記録を正確につけさせ、自己管理と課題の可視化を意識させる。	B	B	
		自律の精神を涵養し、公共の福祉に貢献できる人材を育成する	端正な身だしなみを維持させ、掃除の徹底を図り、環境整備に努めさせる。 生徒手帳を活用させ、時間・提出期限の厳守などセルフマネジメントの図らせる。 正しい言葉遣い、明るくさわやかな挨拶を励行させる。 学校のリーダーとして主体性の確立と利他的精神の涵養に努めさせる。	B	B	
		高い進路目標を設定し、自己実現を果たすまで粘り強く努力のできる生徒を育成する	二者面談・三者面談を通じて適性に応じた進路の目標を決定させる。 総合的な学習の時間にて、自己推薦文や小論文を書かせ、相互評価をさせることで、合理的な批判精神を養わせる。 引き継ぎ表彰などの資格の取得を奨励し、キャリアの発達の促す。	A	A	
部	ファッション デザイン科	学びの高度化と身についた力の見える化	教科・科目横断的視点によるカリキュラムマネジメントを充実させる。 ポートフォリオの分析やルーブリックの活用により、生徒に身についた力を見える化する。 研修会への参加や産業界との交流により教員の指導力の向上を図る。	B	B	1 教科・科目横断的視点によるカリキュラムマネジメントをさらに充実させる。 2 生徒に付けさせたい力を明確にし、そのために必要な教員の指導力の向上を図る。 3 生徒の主体的発表による情報発信が広報活動となり、生徒募集につながるような方策を検討する。
		キャリア教育の充実による高い志の生徒の育成	地域との協働による体験学習などで多様な価値観や職業観に触れさせることで高い志を醸成させる。 資格取得等の効果を狙った指導体制を確立し、専門的職業人としての高度な資質を身に付けた人材を育成する。 幅広い進路選択に対応するためのカリキュラムマネジメントを行う。	B	A	
		広報活動の充実	中学校訪問、中高交流サービス、ホームページ等を活用し、常に新しい情報発信を行う。 体験乳学、小高連携事業、校外での作品展・ファッションショー等で生徒の主体的発表による情報発信を行う。 新学習指導要領に対応した授業改善を行う。	A	A	
		共通教科「家庭」の指導の充実	「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を充実させ、問題解決能力と実践的態度を育成する。	A	A	
部	道徳教育等	豊かな知性と健やかな心と体、豊かな人間性と高い倫理観を育て、社会や国・地域の発展と活性化に貢献しようとする「志」ある人間の育成を目指す。	アクティブ・ラーニング型授業と学校行事により自己と他者との関係を理解させる。 社会貢献のために生きる人生の目標を設定させ、その実現に向けた計画を作成させる。	A	B	1 個々の生徒に職業選択だけでなく、働き方、その職業で最も重要な使命は何か、どうすれば職業を通じた社会貢献ができるまで考えさせる。 2 教科横断的な視点を盛り込んだ授業の精度を高めることにより、グローバル化社会における自己のあり方を考えさせる。 3 講演会の意義等を事前学習し、そのことを個々の生徒が深く考え、互いに意見交換できる機会を設けることで、講演会の学習成果を高める。
		ファッションデザイン科にあっては、その家庭科専門教育を通して、地域・社会に貢献する志と高い倫理観や社会性、道徳性を育て、これからの社会や地域に有為で信頼される人間づくりを目指す。 前向きな生徒の自主性と主体性を重んじ、仲間と協力してものごとを成し遂げる体験を通して学校文化の深化を図る。	ファッションイベントの企画・運営実習や課題研究におけるインターンシップを通して、大人と接する機会を多く設定する。 校外での作品展やファッションショーなど学習成果を発表する場を充実させる。 海外研修により語学力のみならず、国際社会に生きる自己のイメージを確立させる。 校外で長時間集団行動を行うことにより、公共心や協調性の育成を図る。 他人の意見や行動を尊重し、自己との相違点に気づかせて、社会人としての良好な人間関係を形成させる。	A	A	
評価項目		学校道徳教育重点目標	具体的方策	評価(3月)		次年度(下半年)の主な課題